

開催報告 分科会

平成19年度 第1回地域連携クリティカルパス分科会
テーマ：地域連携クリティカルパスの効果的活用を目指して
順天堂大学医学部公衆衛生学講座准教授 田城孝雄



会場風景

平成19年5月12日(土)、日本医科大学大講堂にて行われた平成19年度第1回地域連携クリティカルパス分科会は盛会でした。受講希望者が多く、会場のキャパシティを超え、事務局がお断りした受講希望者も多数居られたと聞いています。診療報酬で、地域連携クリティカルパスが認められたこと、今年全国で一斉に策定される都道府県の地域医療計画に、地域連携クリティカルパスの普及に関する数値目標を設定することが求められていることが、大きな関心と呼んでいる原因と考えられます。今回のシンポジウムでは、地域医療計画と関連付けた議論も行われました。

日本医科大学医療管理学講座長谷川敏彦教授の基調講演は、いつもの通り壮大なお話でした。野村一俊先生(国立病院機構熊本医療センター)、藤本俊一郎先生(香川労災病院)、小川克弘先生(むつ総合病院)からは、バリエーションの収集方法など、地域連携クリティカルパスの緻密化の努力の過程のお話が印象深かったです。また佐藤靖郎先生(済生会若草病院)、田城(順天堂大学公衆衛生学講座)から、地域連携クリティカルパスを運用することで、急性期病院では手術件数や高額医療機器を用いる検査件数が増加する効果があるとの指摘がなされました。最後に厚生労働省医政局指導課伊東芳郎医療計画指導官から、今回発表された事例を参考にしつつ、地域医療計画の案を都道府県に提示していくという締め括りの特別発言で分科会を閉じました。

開催報告 地方会

第7回大分地方会

当番世話人：大分赤十字病院副院長 本廣 昭



会場風景

第7回日本医療マネジメント学会大分地方会が平成19年2月24日(土)に大分市コンパルホールにて開催されました。メインテーマを「開かれた医療を求めて」とし、14題の一般口演・22題のクリティカルパス展示・シンポジウム・特別講演が行われました。シンポジウムは「DPC時代における医療マネジメント」のテーマのもと、大分県内で既にDPCを取得している病院・これから取得しようとしている病院の計5施設から発表していただき、DPC取得の基盤整備・今後の課題につき活発な質疑応答が行われました。特別講演では九州大学医学研究院医療経営・管理学講座の鮎澤純子氏より「クライシスマネジメント～事故発生時の対応における現場の課題～」について、大変有意義なお話をさせていただきました。

なお次回は、大分県佐伯市の南海病院、亀川隆久先生を当番世話人として佐伯市で開催される予定です。

第6回長野地方会

学術集会会長 長野市民病院病院長 竹前紀樹



会場風景

第6回日本医療マネジメント学会長野地方会が、「地域で考える医療安全」をメインテーマ(サブテーマ：長野県内における医療連携・医療安全・DPCについて)、平成19年5月12日(土)信州松代ロイヤルホテルを会場とし開催され、61施設 329名の多職種にわたる医療関係者の皆

さまにご参加いただきました。前半では宮田和信会長(相澤病院)より「地域医療連携と医療安全」、前厚生労働省保険局医療課企画官の福田祐典先生より「平成18年度医療制度改革と診療報酬～医療機関の動向～」、国際医療福祉大学附属三田病院副院長 武藤正樹先生に「地域医療連携と医療の質評価」についてのご講演を頂き、地域連携と医療安全における現状と今後の展望について拝聴しました。

後半では午後の講演とし、エーザイ㈱より「造影剤におけるリスクマネジメント最近の話題」と題したご講演の後、九州大学大学院医学研究院医療経営・管理学講座 准教授 鮎澤純子先生より「医療安全：取り組みの見直しと今後の展開の検討」と題し、海外での医療安全における取組みや課題などを含めご講演を頂きました。

さらに、一般講演では、医療安全3題、地域医療連携4題、DPC・その他3題、計10題の発表があり、活発な意見交換が行われました。

今回、本会が成功裏に終了することが出来たことは、長野県の医療安全と地域連携における関心の高さの表われであり、ひとえに関係者の皆様方のご支援によるものと心より感謝申し上げます、開催報告とさせていただきます。

第13回静岡県地方会

当番世話人：静岡県立総合病院 西尾恭規



会場風景

平成19年8月4日(土)、静岡県総合研修所もくせい会館にて、第13回日本医療マネジメント学会静岡県地方会が開催されました。参加者は164名で、クリティカルパス展示、クリティカルパス討論会、口演発表が行われました。

クリティカルパス展示では20題の応募があり、クリティカルパス討論会では経尿道的膀胱腫瘍切除術、大腸手術、大腿骨頭部骨折をテーマに静岡県版標準クリティカルパスの作成を目指し活発な討論が行われました。口演発表では自由演題4題のほか、今回テーマとした医療連携に対し、大腿骨頭部骨折に対する地域連携の発表4題、前立腺がん検診における医師会と病院の協力体制、インターネットを用いた施設間のテレカンファレンスの試み、静岡市の5病院と医師会によるがん診療連携システム、病院連携の診療カードの発表があり、施設間の連携を抜きには地域連携が成り立たない時代になっていることを痛感しました。

静岡県では、この会のクリティカルパス討論会を通じてクリティカルパスの標準化が進んでいます。今後もさらにこの学会を通して静岡県の医療レベルの向上に寄与していきたいと考えています。